

会 議 録

会議の名称	第1回一般廃棄物処理施設整備検討委員会
開催日時	平成28年6月21日(火) 午後1時30分から午後3時10分まで
開催場所	能代山本広域交流センター 第1研修室
出席委員等	<p>【委員】 鶴田 俊 公立大学法人秋田県立大学 教授 濱田 雅巳 公益社団法人全国都市清掃会議 技術部長 川村 之聡 秋田県 生活環境部環境整備課 課長 宮腰 慶聡 能代市 藤田 定 能代市 淡路 和春 藤里町 淡路 高江 藤里町 加賀谷 道則 三種町 平塚 三千男 三種町 辻 正英 八峰町 金平 公明 八峰町</p> <p>【オブザーバー】 袴田 功 能代市 環境産業部環境衛生課 課長 村岡 徳一 藤里町 生活環境課 課長 川村 義之 三種町 町民生活課 課長 須藤 徳雄 八峰町 総務課 課長</p>
欠席委員等	なし
事務局職員等	<p>【能代山本広域市町村圏組合】 理事会代表理事 齊藤 滋宣</p> <p>事務局長 吉田 昌純 事務局次長 佐藤 隆一 環境衛生課 課長 有山 勇 環境衛生課 課長補佐 田村 典勝 環境衛生課 主査 笹村 敬之</p> <p>【説明補助員】 一般財団法人日本環境衛生センター 環境工学部 部長 佐藤 幸世 " 事業推進役 是則 恭士 " 課長 増渕 淳一 " 計画建設技術課 課長代理 植木 祥治</p>

<p style="text-align: center;">次 第</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 理事会代表理事あいさつ 4 一般廃棄物処理施設整備検討委員会について 5 委員長及び副委員長の選任 6 委員長あいさつ 7 案件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 委員会の運営について (2) 一般廃棄物処理施設整備基本構想について (3) 平成28年度委員会スケジュールについて (4) 一般廃棄物処理施設の処理方式等について 8 その他 9 閉会
<p style="text-align: center;">配布資料</p>	<p>資料1 一般廃棄物処理施設整備検討委員会設置要綱</p> <p>資料2 一般廃棄物処理施設整備検討委員会名簿</p> <p>資料3 一般廃棄物処理施設整備検討委員会の運営について（案）</p> <p>資料4 一般廃棄物処理施設整備検討委員会傍聴要領（案）</p> <p>資料5 一般廃棄物処理施設整備基本構想（概要版）</p> <p>資料6 一般廃棄物処理施設整備基本構想（抜粋）</p> <p>資料7 平成28年度一般廃棄物処理施設整備検討委員会スケジュール（案）</p> <p>資料8 一般廃棄物処理施設の処理方式等について</p>
<p style="text-align: center;">発言者</p>	<p style="text-align: center;">案件・発言・結果等</p>
<p>事務局</p> <p>理事会代表理事</p> <p>理事会代表理事</p> <p>事務局</p> <p>理事会代表理事</p> <p>委員長</p> <p>事務局</p> <p>委員長</p> <p>事務局</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 開会 2) 委嘱状交付 3) 理事会代表理事あいさつ 4) 一般廃棄物処理施設整備検討委員会について 〈 資料1に基づき説明 〉 5) 委員長及び副委員長の選任 一般廃棄物処理施設整備検討委員会設置要綱に基づき委員の互選により、委員長に能代市の藤田委員、副委員長に三種町の加賀谷委員が選任された。 6) 委員長あいさつ 7) 案件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 委員会の運営について 〈 資料3、資料4に基づき説明 〉 質疑なし。原案どおり決定した。 (2) 一般廃棄物処理施設整備基本構想について 〈 資料5、資料6に基づき説明 〉

	<p>基本構想では、能代市一般廃棄物最終処分場の受入停止時期が平成38年頃となっているが、能代市から処分場の覆土工事実施設計等を行った結果、埋立可能容量が減少し、平成36年度中に受け入れを停止するとの通知があった。</p> <p>①可燃ごみ処理施設については、ストーカ式焼却方式、流動床式焼却方式、シャフト式ガス化溶融方式、流動床式ガス化溶融方式の4方式について検討する。</p> <p>②不燃ごみ・粗大ごみ処理施設、最終処分場については、施設を建設するか、処理を民間委託するかを検討する。</p>
委員	<p>基本構想本編の19ページでは、「処理対象物は、現在と同様」としているが、各市町でごみの分別区分が異なる。今後、さらにごみの分別を進める考えはないか。</p>
事務局	<p>組合は、搬入された可燃ごみ、不燃ごみ・粗大ごみを処理している。今後、中間処理において資源化を進めるためには、可燃ごみを溶融してスラグ化する方法や焼却灰をセメント化する方法がある。また、不燃ごみ・粗大ごみについては、破碎選別処理において、資源回収率の高い機械を導入するか、資源回収率が高い業者に委託することが考えられる。</p>
オブザーバー (4市町)	<p>現状で可能な限り分別しており、今以上に分別を進めるためには住民の更なる御理解と御協力が必要であり、時間を要する。</p>
委員	<p>今後、施設を計画するためには、ごみ質を考慮する必要がある。</p> <p>例えば、可燃ごみには雑紙が含まれていると思うが、分別することによって、ごみ質が変わる。今後の市町のリサイクルの取組を踏まえて、施設の整備を考える必要がある。また、ごみ処理量の将来予測については、市町の一般廃棄物処理基本計画と整合性がとれているか。</p>
事務局	<p>市町の基本計画を参考にしつつ、実績を踏まえ、ごみ処理量の予測を行っている。</p>
委員	<p>家庭系ごみは、構成市町の減量化の取り組みにより、もっと減るのではないか。</p>
委員	<p>この地域は、秋田県の中でも高齢化が進んでおり、今後、介護用の紙おむつが増えてくることが予想される。紙おむつは水分を含んで重くなり、発熱量が低くなるため、ごみ質が変わる。計画が過剰になるのはよくないが、行政としては社会構造が変化しても対応できる施設が必要となる。</p>
委員	<p>一般廃棄物処理基本計画は減量化等の目標を掲げるが、計画論であり、目標通りに減らないことがある。施設の計画は実体論であり、実績を積み上げて、その中で振れ幅をどうみることが大切である。高齢社会によりごみ質やごみ量が変わっても、空気量等の設定や運転で対応できる幅があるので、その幅から外れないように予測すればよい。</p>
委員長	<p>ごみ質やごみ量は重要なので、この点について検討する必要がある。</p> <p>基本構想では、ストーカ式焼却方式、流動床式焼却方式、シャフト式ガス化溶融方式、流動床式ガス化溶融方式の4方式を検討することとしているが、この4方式で進めてよいか。</p>

委員	<p>ごみの安定処理が一番重要である。この4方式は実績があり、稼働しているので、適当である。ただし、可燃ごみの処理方式は、ごみ質によって得手不得手がある。例えば、小物金属が混入しても、ストーカ式焼却方式であれば問題ないが、流動床式焼却方式では、一般的に前処理破砕機が必要であり、小物金属などが詰まりの原因となる。評価にあたっては組合で処理しているごみとのマッチングが重要である。現在処理しているごみを処理できるか、各処理方式で確認する必要がある。</p>
委員	<p>粗大ごみ処理施設の破砕機については、医療用の酸素ボンベやアクリルの塊が入ると処理に支障をきたす。粉体は粉じん爆発、化粧品、薬品、アルコール系の殺菌剤も爆発する可能性がある。また、流動床式焼却方式は小型なので、もし爆発すると高温の砂が噴き出すおそれがある。施設や作業員を守るために、何らかのトラブル対策が必要である。</p> <p>この地域の分別方式にあった処理方式、操炉実績のあるものを選定する必要がある。</p>
委員	<p>この地域の住民は化粧品やボンベが危険なことをよく知っており、ごみの出し方は守られている。リサイクルできるものはリサイクルしており、発泡スチロール、牛乳パックも分別している。この地域ではごみ出しルールをきちんと守っていることを踏まえて議論した方がよい。</p>
委員長	<p>可燃ごみの処理方式については、基本構想で絞られた4つの方式で検討を進めることを確認した。</p>
事務局	<p>(3) 平成28年度委員会スケジュールについて 〈 資料7に基づき説明 〉</p>
委員	<p>厳しいスケジュールの中で、重要なことを決めることになるので、無理をしないで進めた方がよい。施設稼働までの全体スケジュールの中で修正を含め検討した方がよい。</p>
事務局	<p>検討委員会は3年を想定しているが、進捗状況によって期間の変更を考える。</p>
委員長	<p>このスケジュール案で検討することを確認した。</p>
事務局	<p>(4) 一般廃棄物処理施設の処理方式等について 〈 資料8に基づき説明 〉 資料8の3ページの評価項目及び配点基準(案)は、視察の参考として例示した。</p>
委員	<p>この地域は日本海側に面し、冬の強風や塩害があり、塗装など腐食対策が必要である。処理方式選定にあたって、この地域と似ている環境でトラブルを起こした経験がないか、確認を要する。</p> <p>中越地震では、柏崎市のごみ焼却場の煙突が倒れた。災害に強い施設について、復旧目標は、他のインフラの復旧等に要する期間にあったものとする必要がある。また、どのような災害を想定し、どこまで対応するか検討し、それを上回る災害では、広い地域での対応が必要となる。</p>

委員	<p>藤里町は雪が多く、収集運搬に時間がかかる。雪害に対する検討も必要である。</p>
委員	<p>今ご指摘の点は、具体的な計画の時に考えればよい。処理方式の選定とリンクしたものではない。また、評価項目のうち連続運転実績については、各処理方式とも実績があり、問題がない。例えば面積がどの程度必要かなど、組合が抱えている問題を解決する方法を評価するように、配点を含め見直した方がよい。</p> <p>これらは今後の作業になるが、評価項目の表は、この委員会において処理方式選定の結論の根拠になるため、十分検討する必要がある。</p>
委員	<p>三重県と石川県で同様のRDF事故が起きたが、降雪の有無など施設建設の条件の違いにより、対応が異なった。この地域の環境に不適合だったものを外していく必要がある。</p> <p>また、事故対応の経験から、ごみを定常的に処理できることが一番重要だと考える。これを主たる目的として評価した方がよい。</p>
委員長	<p>委員の意見を踏まえて、今後の検討を進めたい。</p>
事務局	<p>8) その他 施設の視察は、7月下旬に、秋田市（シャフト式ガス化溶解方式、オープン型最終処分場）、横手市（ストーカ式焼却方式）、大仙市（クローズド型最終処分場）を予定している。</p> <p>9) 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>